

AWについて、もっと詳しく知りたい方はこちら

公益社団法人畜産技術協会

<https://jlta.jp/>



農林水産省「アニマルウェルフェアについて」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/animal_welfare.html



「AWシンポジウムin東京」アーカイブのご紹介

2024年12月13日(金)大手町サンケイプラザにて、
「アニマルウェルフェアシンポジウムin東京～持続可能な畜産業を目指して～」を開催しました。
当日の様子は公益社団法人畜産技術協会のアーカイブページにてご覧ください！



<https://jlta.jp/archives/9937>



The National Association of Racing
地方競馬全国協会
畜産振興事業

公益社団法人畜産技術協会

〒113-0034 東京都文京区湯島3丁目20-9 TEL:03-3836-2301 FAX:03-3836-2302

知ってる? アニマルウェルフェア



家畜たちに、ストレスのない暮らしと健康を！
まずは、「アニマルウェルフェア」を正しく知ってください。

公益社団法人畜産技術協会

みなさんが普段食べている牛・鶏・豚等は、 どのように飼育されているのでしょうか？

畜産業は国民の食を支えてきました。これからも、その重要な役割を担い、持続可能な畜産物の生産を行うため、今まで以上に家畜の事を考え、アニマルウェルフェアに配慮することが求められています。



という考え方です。

感受性を持つ生き物としての家畜に心を寄り添わせ、
家畜を飼育している間、ストレスをできる限り少なく、行動要求が満たされた、
健康的な暮らしができる飼育方法を目指す畜産のあり方です。

アニマルウェルフェアの 基本原則 「5つの自由」

- ① 飢え、渇き及び栄養不良からの自由
- ② 恐怖及び苦悩からの自由
- ③ 身体的及び熱の不快からの自由
- ④ 苦痛、傷害及び疾病からの自由
- ⑤ 通常の行動様式を発現する自由

アニマルウェルフェアには 様々な取り組み方法があります。

適正な飼養管理はアニマルウェルフェアの考え方とリンクする部分も多く、生産者のほとんどがアニマルウェルフェアに関わる取り組みを行っているのが現状です。

例えば…

過ごしやすい環境を作る



家畜が気持ちよく過ごせる環境を作るため、畜舎などの家畜を飼育する建物や場所は、定期的に清掃を行っています。

快適な温度を提供する



家畜たちが常に新鮮な空気を吸えるように、換気を行ったり、快適な温度となるように暑さ対策や寒さ対策をしています。

栄養管理を行う



家畜が健康な状態を維持できるように、毎日観察をしながら、適切な栄養素を含んだバランスの良い飼料や新鮮な水を与えています。

家畜のストレスや怪我、疾病等を減らし、家畜が健康であることによって、
安全・安心な畜産物の生産につながります。

生産者・加工 / 流通 / 小売店・消費者

それぞれの立場でアニマルウェルフェアを考え、
取り組みを進めることで、より豊かな食生活につながります。

生産者



家畜が快適に過ごせるように、飼育環境の改善や健康管理に気を配りながら、基本原則「5つの自由」を満たせるように毎日の飼育管理を行います。

加工 / 流通 / 小売店



アニマルウェルフェアの取り組みについて情報を収集し、消費者が畜産物を購入する時に、選択できる場を提供する。

消費者



アニマルウェルフェアについて学び、家畜の飼育管理や畜産物に何を求めるかを意識する。

生産者は飼料価格の高騰、人手不足、家畜伝染病対策など様々な課題のあるなか、
「適正な飼養管理」に配慮しながら、安全で安定した畜産物(食料)の
生産のために日々努力をしています。

畜産関係者はもちろん、みなさんも一緒に、
「日本の畜産」を応援しましょう！

Q1 **AW**の考え方は、いつから始まったの？
日本の**AW**は、進んでるの？



Dr.AW

A ヨーロッパ諸国では
約50年前から議論が始まりました。

AWは、およそ50年前に議論が始まりいろいろな研究や検討が行われてきました。

日本ではおよそ20年前から検討が始まり、ここ数年でAWの考え方が広まってきたところですが、日本でも既に多くの農場でAWに関する取組みが行われています。

日本のAWに関する取組みは、家畜の健康管理や疾病対策などに重点をおき、ヨーロッパは通常の行動様式を発現する自由に注目した取組みを進めているという違いがあります。



Q2 いま、**AW**が求められてる理由は？
SDGsにも関係してるの？

A 私たちが食べる畜産物のことを知り
もっと、AWを意識することで
SDGsへの貢献にもつながります。

AWの取組みは、持続可能な社会、すなわちSDGsの実現に貢献します。家畜を快適な状態に保つことは、畜産経営の持続可能性を高め、そこで働く人の環境を改善し、質の良い畜産物の供給に寄与します。つまり、SDGsの中でも、特に目標2「飢餓をゼロに」や目標3「すべての人に健康と福祉を」、目標8「働きがいも経済成長も」、目標12「つくる責任、つかう責任」などの実現に関わっています。



Dr.AW



Q3 **AW**に関する
法律ってあるの？



Dr.AW

A 環境省が所管する法律
『動物の愛護及び管理に関する法律』
があります。

AWを目的とした法律はありませんが、関係法令に関しては環境省が所管する法律『動物の愛護及び管理に関する法律』があります。

この法律の下に産業動物については『産業動物の飼養及び保管に関する基準』が定められており、この基準に沿って飼養保管することに努めなければなりません。

また、農林水産省は、日本の家畜のAWの水準を国際水準にすべく、AWに関する新たな指針として「畜種ごとの飼養管理等に関する技術的な指針」を令和5年7月に公表しています。



Q4 「アニマルウェルフェア」と
「アニマルライツ」、「動物愛護」の違いは何？

A アニマルウェルフェアは、動物の生活を
改善するため、動物の状態を客観的に
とらえる考え方です。

アニマルウェルフェアは、動物の生活を改善することを目標としており、動物を私達の生活に利用すること（例えば肉や牛乳、卵など）を認めて、人の感情とは関係なく、動物を主体として動物の状態を客観的に捉えようとする考え方です。

一方でアニマルライツは、「動物の権利」と訳され、動物を利用することをやめようとする考え方です。

動物愛護は、動物を利用する事を認めて、人が動物を愛し大切にすることであり、人から動物への感情が強く反映されています。



Dr.AW





アニマルウェルフェアに関する様々な事例やご意見をご紹介します

アニマルウェルフェアは、生産者、加工／流通／小売店、消費者、動物福祉団体等、それぞれの立場から取り組み、社会全体で改善していく必要があります。そこで今回は、畜産関係者や消費者の声を紹介します。

◆生産者①

生産現場では様々な課題を抱える中、
今後は更なるニーズへの対応も大切。



1. 生産現場での取り組み・課題について

取組みとしては、豚の行動習性を理解すること、農場内に病気を侵入させないことを基本としています。豚の畜舎間の移動時や、出荷移動の際には、群れとしての習性を理解するよう声掛けをし、個体の処置は、経験の浅い人が一人で作業しないよう配慮しています。課題として、人材確保が難しいこと、飼料や資材の高騰により、設備投資ができないため、飼養管理に影響がでないよう、日々の業務が多岐にわたることがあげられます。

2. 持続可能な畜産業を目指し、今後の展望について

今後は、再生産可能な状況を前提として、流通や消費者のニーズに対応した豚肉の生産をしなければならないと考えています。そのニーズの中にAWがあるとすれば、生産現場での対応を国内においても検討する必要があると思います。



◆生産者②

取引先の要望、消費者のニーズを考え
飼育方法の見直しと、新たな飼育方法を実践中。



1. 生産現場での取り組み・課題について

取引先から平飼い卵の要望が増えたため、バタリーケージ飼育と並行して、数年前からケージフリー飼育も始めました。ケージフリーはバタリーケージと違い、フンとタマゴ、フンとニワトリが接触するリスクが高まるため、鶏の健康管理や鶏卵の衛生管理には気をつけなければならないし、バタリーケージは、産んだ卵を100%回収できますが、ケージフリーは、床に産んでしまう卵(巢外卵)の発生にも気を使わなければなりません。

2. 持続可能な畜産業を目指し、今後の展望について

今後は、バタリーケージとケージフリーのどちらが善悪かを判断する前に、両方の飼育方法ともに、より良いAWを目指すべく、運用方法など改善できることから見直し、消費者の様々なニーズや生活スタイルから、どちらの飼育方法の鶏卵でも納得し、喜んで選択していただけるような鶏卵生産を実践します。

※バタリーケージ飼育：ワイヤーケージ内での飼育方法
※ケージフリー飼育：平飼いおよび放し飼いで飼育方法



◆加工／流通／小売店

持続可能な畜産酪農事業を目指して、
アニマルウェルフェアポリシーを制定。



1. AWを推進していく上での「流通」の立場としての課題・取組み

世界的にAWの関心が高まっていること及び農林水産省がガイドラインを明示したこともあり、アニマルウェルフェアポリシーを制定しました。日本国内ではAWはまだ関心が低く、広がっていないため、まずはグループ農場において研修会を開催し、理解醸成に取り組んでいます。生産者側だけでは社会全体に浸透しないので、今後は生産側だけでなく消費者側にもAWを発信していく予定です。

2. 持続可能な畜産物の供給と流通事業者としての今後の展望について

制定したアニマルウェルフェアポリシーは持続的かつ段階的に発展させる観点から適宜内容を見直し、改定していきます。グループ内において家畜と人との双方にとってよい未来を実現するためには生産者や消費者向けに理解醸成を促し、持続可能な畜産酪農事業の実現に取り組んでいます。

◆消費者団体

家畜の飼育方法や生産者の努力を理解することで
SDGs実現、持続的な食料供給に貢献。



1. AWを進めるために消費者にどのような情報を伝えるべきか

AWを知ることを通じて、畜産物のもとになる家畜がどのように飼養されているかを知ることが、生産者の努力や苦勞を理解する上でも大切なことです。特に、食と農の距離が遠くなっている現状において、客観的視点で動物の生活を改善するというAWの考え方については、生産者と一体となって理解を深めることが重要で、そのための普及・啓発が求められます。

2. AWを進めるために消費者ができること

AWを正しく理解することは、畜産業に関する知識と理解を深めるとともに、AWによる改善がSDGsの実現にも貢献すること等の認識を有することで、消費者として食料の持続的な供給にも寄与するものです。また、こうした取組みは、食料の安定供給等を目的とした食料・農業・農村基本法(第14条)の「消費者の役割」を果たすこととなります。

◆動物福祉団体

持続可能な畜産業にはAWが必要不可欠。
AWに関心のある生産者に寄り添う国の支援等も必要となる。



1. 動物福祉の立場からAWの必要性について

動物福祉は動物の人への利用は否定していませんが、動物の生活の質への配慮を求めています。そのため、「5つの自由」の遵守が重要です。倫理的側面だけでなく、動物の心身の健康は人間の健康及び公衆衛生(環境)に影響を与えます。世界への販路拡大、循環型農業や持続可能な畜産業を実現するためにはAWは必要不可欠です。

2. 今後のAWへの理解を促進するためには

欧米が段階的な改善を進めているプロセスを参考にすると、日本も段階的・計画的な取組みが必要です。並行して消費者への啓発は重要で、そのためには小売業界の協力は必要不可欠となります。また、国主導のAWに関する科学諮問委員会の設置とAWを取り入れたい生産者が相談・指導を受けられる機関の設置等も必要です。